

市民を巻き込むインフラ整備プロセスが市民のソーシャル・キャピタル醸成に及ぼす影響
～日向市の街なか再生事業に参加した市民委員を対象として～

宮崎大学 学生会員 松ヶ野佑子
宮崎大学 正会員 辻喜彦
宮崎大学 正会員 吉武哲信
宮崎大学 正会員 出口近士

1. 研究の背景と目的

近年、社会資本整備には市民の意見を取り入れるだけではなく、実際に地域住民が参加することが推進されている。その際、ソーシャル・キャピタル(以下SCとする)の概念が注目されている。SCはPutnam¹⁾によれば、「人々の協調活動を活発にすることによって社会の効率性を高める事のできる信頼・規範・ネットワークといった社会の特徴」とされている。

宮崎県日向市では中心市街地の衰退を受けて1996年より、JR日向市駅を中心とした連続立体交差事業、駅周辺の都市再生土地地区画整理事業、中心商業地区再生事業を組み合わせ、日向市街なか再生事業(以下、日向プロジェクト)を開始した。この日向プロジェクトでは「日向・都市デザイン会議(以下D会議)」が駅舎、駅前広場、街路、公園などの社会資本の設計デザインに関する議論を行っている。

日向プロジェクトの特徴としては、このD会議がプロジェクトの全体の運営を行い、多様な事業主体、市民、

行政、専門家グループがこのプロジェクトに関わったことである。この、市民参加の機会の中でも特にSCの観点から特に重要なのは、2002年以降のD会議から派生した「駅前広場検討委員会」と「まちづくり課外授業」である。検討委員会は、具体的な整備の設計に関する意見交換や試験施工チェックなどを行った。また、「まちづくり課外授業」は地元の富高小学校6年生を対象とした授業である。この授業では日向プロジェクトに関する説明やワークショップが行われた。この他にも、市民は表-1に示した日向プロジェクトにおける関連委員会に市民委員として所属している。

なお、この日向プロジェクトに関して、著者²⁾はSCの醸成をアンケート調査により確認したが、日向プロジェクトとSC醸成との因果関係は未だ明らかにされていない。そこで、本研究は、日向プロジェクトに参加した市民を対象として、市民を巻き込むインフラ整備プロセスがどのように市民のSC醸成に影響を与えているかを明らかにすることを目的とする。

表-1 日向プロジェクトにおける関連委員会一覧

	連立十区画整理事業等(県+市)	中心市街地整備(市)	複合拠点施設整備事業(市)	中心市街地活性化基本計画	特定商業集積整備事業(市+民間)
平成10年(1998年)度	日向地区都市デザイン会議	日向市街なか魅力拠点整備検討委員会	日向市生活・文化交流拠点地区整備推進委員会	日向市中心市街地活性化基本計画策定委員会・幹事会	
平成11年(1999年)度		日向市街なか魅力拠点整備検討委員会			ひゅうが商業タウンマネージメント構想策定委員会
平成12年(2000年)度		日向市街なか魅力再生検討委員会			ひゅうが商業タウンマネージメント計画策定委員会
平成13年(2001年)度		日向市駅周辺道路設計ワーキング部会	日向市駅周辺街なか交流拠点整備検討委員会	日向市福祉のまちづくりモデル地区整備計画検討委員会	ひゅうが商業タウンマネージメント構想策定委員会
平成14年(2002年)度		日向市駅周辺地区ふるさと顔づくり委員会	日向市駅周辺街なかみ景観づくり協議会		
平成15年(2003年)度					その他の団体
平成16年(2004年)度					富高小学校先生
平成17年(2005年)度		日向市駅周辺地区駅前広場整備検討委員会			
平成18年(2006年)度					建築士会日向支部
平成19年(2007年)度			新町まち育てグループ		
平成20年(2008年)度		日向市駅周辺地区駅前広場整備利活用WG			

表-2 アンケート調査の設問内容

個人属性	年齢 性別 居住年数
日向プロジェクトへの参加について	所属していた委員会 イベントへの参加度合い
日向プロジェクトに参加する以前について	日向に関心 積極的に活動したい プロジェクトに関心 活動の成果を実感 価値観共有できる仲間 人となりができた 市民と行政の関係 知識が豊か 社会貢献ができた 達成感を感じた 人に喜ばれた 行政に対する信頼 人との交流増加 (年齢層、職業、価値観、他地域、知らない地域)
日向プロジェクトで得たことについて	活動が楽しい 積極的に活動したい 日向に関心 グループに所属し活動

2. 日向プロジェクトとSC醸成の関係

(1)調査の概要

本研究では、市民の日向プロジェクトに対する満足度がSC醸成に与える影響の度合いを、共分散構造分析を用いて明らかにする。

アンケート調査は平成20年12月に実施した。質問は表-2に示すように、(1)個人属性(年齢、性別、居住年数)、(2)プロジェクトへの参加に関する2項目、(3)日向プロジェクトに参加する以前に関する3項目、(4)プロジェクトで得たことに関する13項目、(5)日向プロジェクト後のまちづくり活動について4項目、とした。調査対象者は日向プロジェクト関連委員会に参加した市民委員と建築士会日向支部、まちづくり課外授業を担当した富高小学校の教諭の82名である。アンケート票は郵送で配布し、その結果53通の回答が得られた。回収率は64.6%である。調査概要を表-3に示す。

表-3 調査概要

調査対象者	・日向プロジェクト関連委員会に参加した市民委員 65名 ・建築士会日向支部 10名 ・富高小学校教諭(当時) 7名
調査方法	郵送方式
調査期間	平成20年12月25日～平成21年1月30日
回収率	64.6%(53通/82通)

(2)共分散構造分析

日向プロジェクトと市民のSC醸成との因果関係を明らかにするために、共分散構造分析を利用する。まず、53のサンプルの因子分析を行い、抽出された因子を潜在変数とし、「日向プロジェクトに対する満足度」、「プロジェクト参加前後のまちづくり活動に対する参加意欲」、「人に対する信頼」とした。

分析を行った因果パスを、誤差項を省略し図-1に示す。結果は、5%水準で全て有意である推定値(標準化推定値)が得られた。適合度指標はCFI=0.971、RMSEA=0.053と十分な適合を示した。

図-1での「信頼」に関する潜在変数と観測変数、「イベントへの参加度合い」や「グループで活動」という観測変数がSCと関連する。これらを見ると、「日向プロジェクトに参加する以前のまちづくり活動参加意欲」と「満足度」の相関は0.22と低い。一方で、市民が市民委員として日向プロジェクトに参加し、「知識が豊かになった」、「社会貢献ができた」と認識することで日向プロ

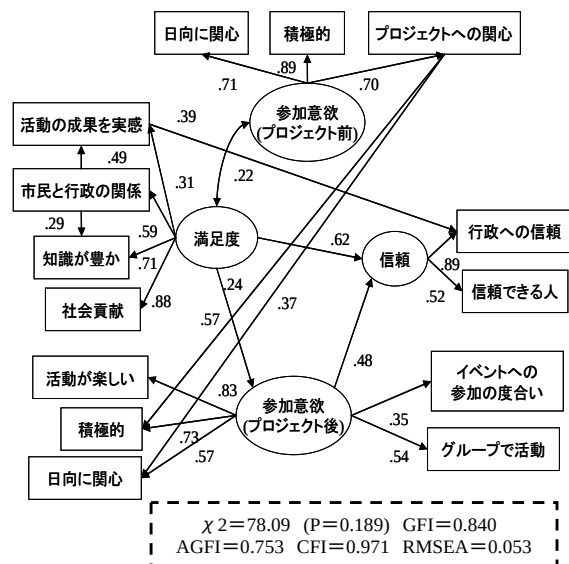


図-1 共分散構造分析より推定される因果構造

ジェクトに対する「満足度」が高まるというパスが存在する(パス係数0.62)。この、「満足度」の向上が行政やプロジェクトを通して知り合った人に対して抱いた「信頼」に影響を与えていることが確認できる。さらに、「満足度」から「日向プロジェクト後のまちづくり活動への参加意欲」に影響を与えていることは重要である(パス係数0.57)。また、「日向プロジェクト後のまちづくり活動への参加意欲」は「イベントへの参加度合い」や「グループで活動」という観測変数に対して0.35、0.54と少なからず影響を与えているといえる。

4. 考察とまとめ

本研究では日向プロジェクトとSC醸成の因果関係を明らかにした。分析の結果をSCの評価観点より考察すると、日向プロジェクトで得た満足度は、市民の信頼形成、まちづくり活動への参加意欲や行動に正の影響を与えていることから、SC醸成に良い影響を与えているといえる。したがって、市民が積極的にまちづくり活動に取り組みたいと感じることができるよう委員としてのプロジェクト参加は、SC醸成に有効な手法と考えられよう。

参考文献

- 1) 内閣府国民生活局市民活動促進課：ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて、2002。
http://www.npo-homepage.go.jp/data/report9_1.html.
- 2) 辻喜彦・斉藤詩織・吉武哲信・出口近士：インフラ整備と併せたソーシャルキャピタルの育成に関する研究-日向市街なか再生事業を事例として-,土木計画学研究・講演集,Vol.38,2008年.